

ばれっと

2011
9月
No.145

まだ*これ 合併号

●目次

- P2~3 震災後に立ち上がったNPO
- P4~5 事務用ブース入居団体による震災復興活動~その1~
- P6 市民活動サポートセンターからのお知らせ

ともに、前へ！仙台

東日本大震災 特別号⑥

せんだいメディアテークが開設した「3がつ11にちをわすれないためにセンター(わすれん!)」とサポセンが協力して作成しているインターネット番組「支援のかたち~生放送! サポセンかわら版~」では、市民活動団体・NPOが行う復興支援活動を紹介しています。

毎回テーマを設け、2~3団体をゲストに招き、支援のはじまりと活動、今後の課題・展望について座談会形式で語り合う番組です。共通のテーマで活動しつつも、それぞれ立場や視点が違ったり、多様なエピソードが語られるのが見どころです。

ネットでの生放送は、月2回、日曜日午後2時30分からです。ぜひご覧ください。



▲わすれんTV311「支援のかたち」
9月4日(日)放送「若者」の出演者

■ご利用案内■

<開館時間>

平日	午前9時~午後10時
日曜・祝日	午前9時~午後6時
休館日	毎月第2・第4水曜日

●仙台市市民活動サポートセンターは、市民活動団体・NPO等の復興支援・まちづくり支援の一環として、9月30日(金)まで無料で貸室をご利用いただけます。

東日本大震災 ～その時～

震災後に立ち上がったNPO

東日本大震災では、多くのボランティアが被災地に入り、支援活動や復興活動の中で活躍しました。また、震災後、ボランティアと被災地を結ぶために立ち上がった団体も現れました。今回はそんな、震災後に立ち上がった団体の中から、3つの団体を紹介します。

農業の復興支援を通して、地域に寄り添う ReRoots (リルーツ)

ReRootsは、3月11日に起きた東日本大震災で、仙台市青葉区の川内コミュニティセンターに避難したメンバーが集まって結成されました。避難所で過ごす中、大学生を中心として徐々にボランティアの運営組織が出来上がり、水汲みや炊き出し、トイレの水流し、情報の伝達などに取り組みました。また同時に津波で被災した地域においてガレキの撤去や泥かきなどのニーズが非常に多いことを知り、沿岸被災地への支援活動を行うことになりました。

ReRoots代表の広瀬剛史さんは「被災者が主人公になり、大学生をはじめとした多くのボランティアが被災地に来ることで、地域の活気や農業の若返りなどの変化が生まれてくる。それが復旧から復興へ、そして地域おこしへとつながる」と考えたそうです。そして、4月18日、避難所から継続して活動してきた経験と、これからの復旧・復興活動をしていくために、ReRootsの出発地点でもある「3.11を忘れない」よう、サークルとして活動することを決めました。

まずReRootsはミッションに賛同してくれる企業・NPOとの協働でプレハブや機材の寄付を集めながら、7月に仙台市若林区に拠点施設として「ボランティアハウス」を構えました。それ以来、これまで農地の土おこしやガレキ撤去、民家や側溝の泥だ



▲代表の広瀬剛史さん

しなど、農地を中心とした復旧作業を行ってきました。

現在抱えている課題は、活動を継続するための人材確保や自動車・トラックなどの資材確保だそうです。農地の復興は長期的な取り組みになるので、地域や企業・NPOとの信頼関係を構築しながら協力を得て、活動を継続していきたいとのことでした。

最後に広瀬さんは、「あくまでも主人公は地域の住民なので、住民がどのように地域を復興していきたいかということが基本です。若林区の津波被災地は宮城県でも有数の農業地帯であり、農業を通じた再生をどのように進めるかが土台になると思います」と力強く語ってくれました。これからReRootsは耕作放棄地を借りてボランティアが農業に取り組んで野菜づくりする「市民農園」など、農業の復興支援拠点として、農業が復活するための地域に根付いた活動をしていきたいとのことでした。

(吉田裕也)



▲ ボランティアハウス(左)と
ボランティアのみなさんをお迎える「はたらっくま」

ReRoots(リルーツ)

【代表者】 広瀬剛史

【連絡先】 〒984-0032

仙台市若林区荒井字遠藤43-1

TEL&FAX 022-762-8211

【E-mail】 reroots311@yahoo.co.jp

【ウェブサイト】 <http://reroots.nomaki.jp/index.html>

インターネットと地元の力を融合

ボランティアインフォ

仙台駅の2階、観光案内所の隣に設置された「東日本大震災ボランティア・インフォメーションセンター・宮城」（8月31日をもって終了）は、被災地支援に訪れる多くのボランティアの情報基地として活用されました。運営していたボランティアインフォの代表、北村孝之さんにお話を伺いました。

インターネットで被災地の情報を発信していた「助けあいジャパン」は、ゴールデンウィークに大量のボランティアが被災地を訪れるであろうことを予測し、仙台駅で情報を提供する「ボランティア情報ステーションin仙台・宮城」を開設。「助けあいジャパン」から派遣された北村さんと、地元仙台のボランティア30名が運営にあたりました。県外から来る人たちは、気仙沼や石巻がどこにあるのかもよくわからないので、土地勘のある地元のボランティアがいることが、大きな強みだったそうです。

ゴールデンウィーク終了後、情報ステーションは閉鎖となりましたが、「被災地のためにも継続して行わなければ」という声がボランティアの中から上がり、5月15日に有志によりボランティアインフォが結成され、北村さんが代表に就任。「東日本大震災ボランティア・インフォメーションセンター・宮城」という名前で、仙台駅での情報提供を再開しま



▲ 代表の北村孝之さん



▲ インフォメーションセンター

した。現在、ボランティアインフォは、被災地で活動する団体とボランティアをつなぐ「もっとボランティアを!プロジェクト」など、インターネットを使った支援にも力を入れています。「インターネットが現場で活用しきれていないことがもったいないと思った」と北村さん。ボランティアインフォのサイトでは、被災地で活動している団体の熱意や想いを伝える工夫もしています。現場で得た情報をできるだけ伝えたいとの思いから、サイトに掲載する団体は、ボランティアインフォのメンバーが、被災地に出向いて探し出し、話を聞き、活動の現場を見てから紹介しているそうです。

インターネットを介して、被災地と団体やボランティアをつなぐ活動が着実に動き出しています。

(太田貴)

ボランティアインフォ

【代表者】 北村孝之

【E-mail】 vo-info@volunteerinfo.jp

【ウェブサイト】 <http://volunteerinfo.jp/>

大学生の強みを活かして活動

東北大学地域復興プロジェクト“HARU”

東日本大震災から東北地域の復興を支援するために東北大学生で組織された、「東北大学地域復興プロジェクト“HARU”（以下、HARU）」。1,000名以上の登録者を抱えるHARUの広報部に所属する津川靖基さんと福本幸子さんに、お話を伺いました。

HARUの設立は、震災後まもない3月24日のことでした。震災後、東北大学の教授陣の中から、学生ボランティアを組織しようという意見があり、環境科学研究科が中心となって立ち上げました。これまでに行った活動は、まず、ボランティアを希望する学生が、メーリングリストに登録。外部からのボランティア依頼をHARUが調整し、ボランティアを希望する学生とマッチングしました。実際にボランティアを体験した学生が周りの友達を誘うなど、学生間のネットワークも機能し、5月末には登録者数が1,000名を超えていたそうです。活動実績としては、支援物資の仕分け、写真の清浄ボランティア、高齢者介護、通訳などなど多岐にわたります。

福本さんも、HARUの実働ボランティアとして山元町で3週間ボランティアをしたそうです。「他の団体などを通して何度か単発のボランティアに参加する中で、一カ所でもっとじっくりボランティアがしたい」と思っていたときにHARUと出会い、山元町に滞在しました。その後、「被災地で聞いた生の声を



▲ 広報部の津川靖基さんと福本幸子さん



▲ 立ち上げ当時の本部の様子

広く届けたい」と広報の重要性を感じ、広報部に入ったそうです。

震災後3カ月が経過した6月から、HARUは一旦、活動を休止しています。団体内には、活動休止に反対する声もありましたが、今後を見据えての判断でした。「震災から3カ月が経過し、被災地のフェーズも変化しました。これまでの要請に応じてボランティアを派遣するというスタイルから、大学の専門性なども活かした自分達にしかできないことを考えて行動する能動的な活動へと転換を図っていきたいと考えています」と津川さん。

学業との両立を図りながら、東北大学生の強みを活かした活動を展開していく予定です。(太田貴)

東北大学地域復興プロジェクト“HARU”

【連絡先】 〒980-0812 仙台市青葉区片平2-1-1

東北大学多元物質科学研究所
素材棟1号館

【E-mail】 tohoku.gakusei.fukko.koho@gmail.com

【ウェブサイト】 <https://sites.google.com/site/haruthuv/>

■サポセン事務用ブースからの復興支援 ～その1～

NPO法人
仙台交流分析協会

被災者・支援者の心を軽くするお手伝い

コミュニケーションに自信がない、苦手意識がある方にも「よりよい人間関係を築き、豊かな人生を送ってもらいたい」という想いで活動している仙台交流分析協会。「交流分析」というカウンセリングの基礎である心理学の一理論を使って、対人関係の問題解決にヒントを提供しています。心理学というと、ちょっと難しいようにも思いますが、とてもシンプルな理論で実践しやすいのだそうです。今回は、運営委員長の黒田敬子さんにお話を伺いました。



▲事務用ブースにて。黒田さん。

● 拠点を活かして素早く支援を開始

仙台交流分析協会は、震災後の4月中旬には「こころのサポートルーム」という相談電話を開設し、被災者の支援を始めていました。黒田さんにそのきっかけを伺うと「4月の下旬、サポセンが復興支援活動の拠点として再開されたと聞きました。そこで“サポセンに事務用ブースを持っているのだから、ここを拠点に何か支援活動ができないか”と考えたのです」とのこと。相談は、5人のメンバーが持ち回りで担当しています。

常々、迷って悩んで困っている人にとって、相談できる窓口は複数あることが大事ではないかと黒田さんは考えているそうです。「人によってこころのニーズは多様で、情報の入手方法や範囲が違いますから、複数の窓口があれば、どれかにアクセスできると思うんです。そうすることで、不安を抱える人を少しでも支援できるのではないのでしょうか」こうして、被災者の支援がスタートしました。

● 震災がきっかけで変わった意識

これまでの活動は、委員が中心となり事業を進めてきたという感じがありましたが、震災により変化がありました。「委員の中には、ご家族や職場が被災し、思うように活動ができなくなった方がいらっしゃいます。すると委員ではないメンバーが、“私できます”と自発的に相談員や係を申し出てくださったんです。底力ですね」と黒田さん。

また、震災後は講座のカリキュラムなど、活動の大幅な見直しをしなければならなくなりましたが、そのことで活動の方向が明確に、より自分達のやりたいことに絞られたそうです。それは地域に根ざした活動をすること、交流分析本来の心理療法の理論・技法が実践でき、よりよい人間関係を築くストロークの実践をすることです。（交流分析では、自分や他人の存在価値を認めるための行動や働きかけを「ストローク」と言います。）

● これからの復興への道のりを支える

5月に開くはずだった総会を9月に開くことになり、同時に公開講演会も開催します。「講演会の収益は、現場で活動しているこころのケアの団体や精神福祉センター等に寄付する予定です」と黒田さん。被災地に直接入ることも考えたそうですが、今いる所でできることをやる、被災者をサポートする人・専門家が元気になるように、サポートする人をサポートするという方向に落ち着きました。

「今後“震災うつ”に悩む方も出てくると思います。これから私たちに求められることが多くなっていくでしょう。当協会には、それに応えられる準備があります」と黒田さんはおっしゃいます。

仙台交流分析協会のメンバーの中には、交流分析を究め、職業カウンセラーとして働いている方々もいらっしゃいます。そんな方ができるだけ時間を割いて職場ではない場面でその力を使っていくというのは、「自分の利益よりも、できるだけ多くの方を助けることを優先する」という使命感がなくてはならないと思います。復興への道のりが、このような使命感を持った方々に支えられていることを実感しました。（菅野祥子）

～こころのサポートルーム～

安全・安心な場所で被災者および救済支援者のこころのサポートを行っています。

電話相談も可能です。面談をご希望の方は、電話での予約ができます。相談料は無料。秘密は厳守いたします。

時間：木・金・土曜日 午前10時～午後4時

電話：022-265-0441

場所：仙台市市民活動サポートセンター 7階

NPO法人仙台交流分析協会

【代表者】 理事長 稲垣行一郎

【連絡先】 TEL&FAX 022-274-0690

【E-mail】 sendai_ta@yahoo.co.jp

【ウェブサイト】 <http://www.ta-sendai.com/>

サポセン7階の事務用ブース入居団体による
様々な震災復興活動をご紹介します。

**宮城県学童
保育緊急支援
プロジェクト**

一日も早い学童保育の復旧・復興を願って

今回の震災で、共働きや母子・父子家庭の小学生の子どもたちの放課後生活を守り支える学童保育の存在は、避難所でも大きな意味を持ち、被災した子どもたちが子どもらしい生活を取り戻すために学童保育の指導員たちが果たした役割は大きなものでした。「宮城県学童保育支援プロジェクト」の代表池川尚美さんに、お話しをお聞きしました。

●いまこそ県内の学童保育がつながるとき

今年1月「宮城県学童保育講座」が開催され、参加者の中から宮城県内にも学童保育のネットワークが欲しいという声上がり、これを機会にぜひ全県的なつながりを持つようとしていた矢先、3月11日の東日本大震災に遭ったのでした。

震災と同時に全国の子どもに関する活動をしているNPO・NGOや学童保育の関係者から、何か支援することはないかとの問合せが殺到しましたが、直後は、顔見知りの指導員をたどり安否確認をするのが精一杯。受け入れには被災地の負担が大きく、なかなかそれらの要請に応える体制を取ることができなかつたといえます。

どうにか県内の指導員たちとも連絡が取れ、だんだん各地の被災の様子が分かりはじめたのが5月の連休の頃。全国から寄せられた義援金をもとにプロジェクトを立ち上げ、いよいよ支援活動を本格的に開始することになりました。また、6月には、サポセンの事務用ブースの追加入居募集があり、団体の拠点を確保することができ活動の環境もだんだん整ってきました。

●まず指導員の声を丁寧に聴くことから

まず県内で支援に入ったのが、七ヶ浜町の学童保育でした。5月にすべての指導員との懇談と研修会が行われました。参加者からは、被災当時の様子や



▲被災した学童保育施設(東松島市野蒜)



▲七ヶ浜町の指導員さんとの懇談の様子

今抱えている問題点などを話し合い、共有したことで、自分たちの仕事の意義を確認し、再び子どもたちに関わって働いていこうという気力と確信が持てたことは、とても有意義だったという声が多く寄せられました。

続けて、多賀城市、石巻市でも開催。現在、亘理町、山元町、東松島市での開催に向け調整を進めているところです。また、県内でも被災の差は大きく必要とされるものも違ってきます。南三陸町など沿岸部では、学童保育を行う場所自体が確保できず再開が難しい状況のなか、NGOなどの他団体や行政などと連携しながら、復興支援を継続的に行っていくことにしています。

●学童の放課後の生活を守る必要性

震災後の子どもの心のケアが重要視されていますが、「学童保育では、継続的に子どもたちに関わる大人たち保護者や家族、特に指導員の心の安定と回復が必要です。それは奇しくも震災前から問題視されていた、学童保育の専門性、指導員の身分の保障、労働条件の改善の問題にもつながってきます」と、池川さん。震災で家族形態が壊れ、今まで祖母など同居する家族に頼ってきた家庭でも生活再建のため両親が働きに出なければならなくなったり、また母子・父子家庭も増えてくることなどが予想され、学童保育のニーズは、今後ますます高まってくるでしょう。サポセン事務用ブースに入居している3年間を活用し、基盤づくりをしながら、県内の学童保育の向上と確固たるネットワークづくりを目指す活動の展開が期待されます。(葛西淳子)

宮城県学童保育緊急支援プロジェクト

【代表者】 池川尚美

【連絡先】 TEL 090 -1930- 4908

FAX 022-215-9867

【E-mail】 miyagi.gakudou0311@yahoo.co.jp

市民活動サポートセンターからのお知らせ

■10月1日(土)からの一般利用再開に伴い、貸室申込受付を再開しています。

- 申込受付の開始日
 研修室：ご利用日の3ヶ月前から
 セミナーホール：ご利用日の6ヶ月前から
 市民活動シアター(全日)：ご利用日の6ヶ月前から
 市民活動シアター(区分)：ご利用日の3ヶ月前から
- 受付時間 平日/午前9時～午後9時
 日祝/午前9時～午後5時
 ※電話予約は、申込受付の開始日の午後2時から行います。

■10月1日(土)からシニア活動支援センターを再開します。

- 開館時間 平日/午前10時～午後8時
 日祝/午前10時～午後6時
- 休館日 毎週水曜日

■現在は、震災後の復興まちづくり支援の一環として、貸室を無料でご利用いただいております。(9月30日(金)まで)

- 研修室、セミナーホール(無料)
 対象期間：9月30日(金)まで
 用途：打ち合わせ、会議、イベント、研修等
- 市民活動シアター
 復興支援活動のためのイベント等で、市民活動シアターも無料でご利用いただけます。
 対象期間：9月30日(金)まで
 ※先着順で受け付けております。
 詳細についてはお問い合わせください。

■9月から休館日が月2回となります

サポートセンターの建物は築20年以上経過し、施設内設備の点検や修繕に要する時間が増えてきております。施設内設備の点検、修繕のため、これまで月1回となっていた休館日を 2011年9月より月2回 とさせていただきます。

サポートセンターでは、利用者の皆さまに安心、安全にお使いいただけるよう今後も努めてまいりますので、何卒ご理解ご協力お願い申し上げます。

休館日は次のように変わります

■これまで 毎月最終水曜日



■2011年9月より 毎月第2・第4水曜日
 (9月の休館日 9/14・9/28)

※当該日が祝日にあたる場合は、翌日木曜日が休館日となります。

※年末年始休館は今まで通り12月29日～翌年1月3日です。

東日本大震災を受け、復興支援活動に取り組む市民活動団体・NPOがサポセンをご利用いただく際は、事前に「復興支援活動団体利用受付シート」の提出をお願いしています。3月28日から8月31日まで、288団体からの利用受付シートのご提出がありました。

このシートは、サポセン1階に掲示し、ブログ等にも掲載します。

また、団体からのご要望に応じて、10日毎に発行している「サポセンかわら版」にも掲載いたします。団体活動の詳細はこちらをご覧ください。

●復興支援活動情報ブログ

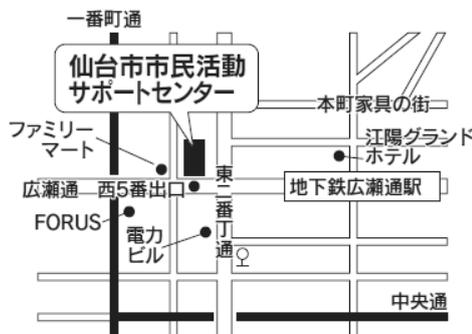
<http://blog.canpan.info/fukkou/>



■案内図

[最寄のバス停]
 電力ビル前
 商工会議所前

[地下鉄]
 広瀬通駅下車、
 西5番出口すぐ



■編集後記

今回の特集では、震災後立ち上がった団体を紹介しました。阪神・淡路大震災のあった1995年は、「ボランティア元年」とも呼ばれました。東日本大震災でも、多くのボランティアや市民活動団体が被災地の復興に力を注いでいます。震災から生まれた支え合いの精神を、地域をつくる力へと育てていくためにサポセンができることを考えていきたいと思えます。(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2011年9月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 真壁さおり

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]

★古紙再生紙を使用★大豆油インキを使用